

# 主食用品種「福島40号」の育成

福島県農業総合センター 作物園芸部品種開発科

部門名 水稲—水稲—品種、育種・選抜

担当者 小林恭子・川島史寛・薄瑤子・斎藤真一・菅野拓朗・渡邊滉士・遠藤わか菜

## I 新技術の解説

### 1 要旨

「福島40号」は「コシヒカリ」並の熟期で、「コシヒカリ」より収量・品質が優り、千粒重が大きく、耐倒伏性やいもち病抵抗性が優れ、味度値が高い。

- (1) 出穂期および成熟期は、「コシヒカリ」より2日～3日程度遅い“中生の晩”に属する粳品種である(表1)。
- (2) 稈長は「コシヒカリ」より短い“中稈”で、穂数は「コシヒカリ」並である。草型は“中間型”で、耐倒伏性は「コシヒカリ」に優る“強”である(表1、図1)。
- (3) いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia*、*Pii*”と推定され、ほ場抵抗性は葉いもち、穂いもちがともに“中”である。障害型耐冷性は“中”、穂発芽性は“難”である(表1)。
- (4) 玄米千粒重は「コシヒカリ」に比べ大きく、収量性は「コシヒカリ」にやや優る。玄米外観品質は白未熟粒の発生が「コシヒカリ」より少ない(表1、図2)。
- (5) 味度値が「コシヒカリ」よりも高い(表1、図3)。

### 2 期待される効果

- (1) 耐倒伏性、いもち病抵抗性が「コシヒカリ」より優ることから、収量や品質面での安定生産が可能になる。
- (2) 「コシヒカリ」より味度値の高い品種のため、既存品種との差別化商品として期待でき、プレミアム米としての位置づけとして一定の需要量に応じた普及が期待できる。

### 3 適用範囲

福島県の平坦部

### 4 普及上の留意点

多肥栽培は、倒伏を招くので避ける。

## II 具体的データ等

表1 「福島40号」の特性一覧

試験地(育成地 郡山市)	新潟88号×郡系627	
品種系統名	福島40号	コシヒカリ
早晩性	中生晩	中生晩
草型	中間型	中間型
出穂期(月日)	8月8日	8月6日
成熟期(月日)	9月29日	9月27日
稈長(cm)	77	90
穂長(cm)	19.9	19.1
穂数(本/m <sup>2</sup> )	436	412
倒伏程度(0~5)	0.2	2.4
いもち真性抵抗型	<i>Pia,i</i>	+
葉いもち	中	弱
穂いもち	中	弱
耐倒伏性	強	弱
耐冷性(障害型)	中	強
穂発芽性	難	難
精玄米重* <sup>1</sup> (kg/a)	65.9	62.9
玄米千粒重* <sup>1</sup> (g)	24.2	22.4
玄米品質* <sup>2</sup> (1-9)	4.5	5.1
整粒歩合* <sup>3</sup> (%)	75.0	74.6
白未熟粒歩合* <sup>3</sup> (%)	6.4	10.7
味度値* <sup>4</sup>	88.2	84.4

2014年～2018年の生産力検定本調査標肥区の平均値

標肥区(基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a)

\*<sup>1</sup> 1.8mmの篩で調製し水分15%で換算

\*<sup>2</sup> 遠観調査による1(上の上)～9(下の下)の9段階評価

\*<sup>3</sup> サタケ穀粒判別器(RCQI20A)のより測定

\*<sup>4</sup> トーヨーマルチ味度メーター(MA-90R2)により測定

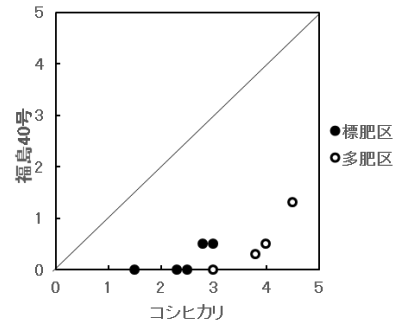


図1 「福島40号」の倒伏程度(無0-5甚)  
(2014年～2018年 場内試験)

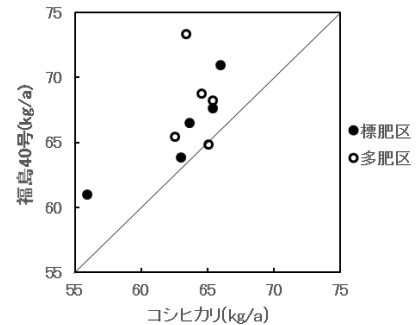


図2 「福島40号」の収量性(kg/a)  
(2014年～2018年 場内試験)

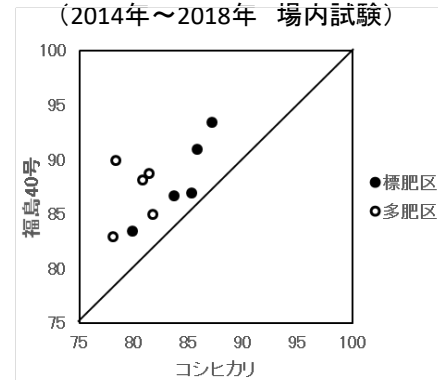


図3 「福島40号」の味度値  
(2014年～2018年 場内試験)

\* 標肥区(基肥窒素0.5kg/a+追肥窒素0.2kg/a)  
多肥区(基肥窒素0.7kg/a+追肥窒素0.2kg/a)

## III その他

### 1 執筆者

川島史寛

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成26年度～30年度

(2) 研究課題名 新需要対応オリジナル水稻品種の育成(収量性のある中食外食向け品種の育成)

### 3 主な参考文献・資料

特になし